

義士 近松勘六の生家と



310年以上続いている田畑（本家）

令和元年10月3日（木）久し振りに近松勘六の生家を訪ねた。生家は寛永年に建てられ、令和の現在までその姿を止めている。勘六は安兵衛とは、真反対の性格で沈着冷静、内蔵助の命を請け忠左衛門と共に同志の鎮撫に歩き廻っていた。自らは結婚して間もなく事件が起きた為類罪も考え、離縁の形を取り妻（ムメ）を郷里の実家藤井家へ送り届けている。唯、勘六の救われることは、田畑もあり、他の義士たちよりは裕福であったと言えることである。また、義士たちは47人の内でも派閥を作っていたが、勘六は自他共に内蔵助派で、元禄15年10月7日出発にも同道している。



発行人

〒104-0052

東京都中央区月島3-15-9

全義連事務局

TEL 048-973-3777

編集者 中島康夫

ホームページ

忠臣蔵会館

出版・校正・協力

テレビ製作協力

講演・史跡案内

<http://www.chuushingura.net/>

令和元年度は改訂版
「年譜忠臣蔵」
の発行を予定しております

瑞光院遺燭碑 碑文の大意

石碑の「碑」の字は「悲」と同音で、この碑は悲しみを述べるものである。わたし（筆者浅野長祚）の宗家（赤穂藩浅野家）の家臣大石良雄のことを思えば、そのころざしに誰もが悲哀の感を持つ。

京都の西北、柴野の大徳寺に瑞光院という塔頭がある。わが宗家の菩提寺である。元禄十四年に宗家は廃絶し、良雄は山科村に仮住まいした。京都からわずかの距離である。そこで瑞光院は住職の宗湫禅師と協力し、令光府君（浅野長矩）の墓を瑞光院に作り、さらに忠義の心をもって主君の恨みをはらしたいと誓った。また言うことは、恨みをはらすことができれば安心して死に就ける。死んでも魂魄はどこへでも行くので、その時には禅師よわが魂魄を地下から招きよせよ。亡き主君の弔いに陪席できたらそれで願いは満たされるのだと。

良雄はしばらく山科に住んだあと辞去し江戸へおもむき、他の浪士とともに主君の恨みをはらした。禅師はこの報を聞きおどりがあって喜んだ。良雄らが切腹する一月前である僧侶を江戸へ遣わし、一同の髪の毛や鬚を京都へ持ち帰

らせ、主君の墓石のそばにうずめ、四十六柱の碑を建てた。碑には浪士それぞれの名を刻み法事を行った。これもひとえに良雄の遺志を果たしたものである。良雄のころざしはまことに悲しむべきものであるが、禅師のごときは一貫してその宿願を果たさせた者というべきである。しかし禅師が亡くなってからは世話をする人もなく寺は荒廃し、浪士の碑もすべて壊れてしまった。

大網尊者は現代の名僧である。大徳寺黄梅院の住職となり、あわせて瑞光院を管理した。良雄のころざしに感じ入り、再興資金を募ったところ、零細な寄附がしだいに積もり、癸丑の

年（嘉永六年）に廃寺になった瑞光院の跡地に復興することができた。復興のあと、わたしの文章を石碑に刻み後世に残したいと依頼があった。

わたしは浅野長矩の子孫の地位を汚し、元禄の変（赤穂浪士事件）の経緯は熟知していた。良雄らの事を口にする時には常に涙にくれていた。大網尊者は以前から良雄のころざしを悲しみ、今回の再興に至ったのである。尊者の依頼を聞き入れ良雄のころざしの悲しむべきことを記すのは当然のことである。

嘉永七年歳次甲寅秋七月 京都歴史資料館より
中務少輔浅野長祚撰并書丹

山科ふるさと会 岩津聖史

瑞光院・山門



そのときその義士達は
どこにいたのか (その五)

三輪三郎

元禄十五年十一月 内蔵助は入府以来一挙に向けて同志たちと共に吉良邸の探索に励んできた。そんな中で心配になってきたのが、討入りの際、上野介の在宅の確認をどうしてとるかということであった。

元禄十五年夏以来、上野介は妻子上杉綱憲が病気で見舞にゆき、上杉邸に居る事が多かった。又茶道が好みで茶会にも出かけ、不在がちでもあった。

そこで、内蔵助は一名案を策した。

お茶を通じて上野介の動静を探ることである。茶匠山田宗偏のところへ同志を入門させ、宗偏を通じて上野介の在宅を探ることであった。

そんな大役に白羽の矢をあてられたのが大高源五である。

源五はそれを引き受け、上方の呉服商の番頭脇屋新兵衛と称し、さる大名の娘のお嫁入りの支度注文を受けて、江戸に上がって来ている。茶のことも心得たいと云う触れ込みで宗偏入門した。

かくして源五は、十二月五日吉良邸で茶室開きがあると云う情報を宗偏から見事入手することに成功した。

深川会議

これを受けて内蔵助は吉良邸への打ち込みを十二月五日夜(六日未明)と決め、同志一同を集めて最後の詰めを行った。ときは十二月二日

場所は深川富岡八幡宮前の料亭で料亭主には時節柄頼母子講取立という名目であった。世に云う深川会議である。

江戸時代ここは有数の盛り場。内蔵助らの隠れ家、日本橋の小山屋からもほど近いところであった。集った同志は全員。町人風、浪人風とその格好も様々であった。

提起された議案は(1)起請文前書、(2)人々心覚、(3)口上書(浅野内匠家来口上書)であった。

一、起請文前書

起請文(きししようもん)は一般に起請の文書、前書、神文、姓名よりなっている。

江戸集結以来、一か月になろうとしているが、同志の脱落などなかなか明るい展望が見えてこない状況を見て、内蔵助は本望を達する時も近づいている。今こそ、一心同体になることが肝要であると思い、更に神文誓約による血判を求めたのである。

前書は十一月七、八日に堀部弥兵衛宅において大石、吉田らによって作成されたものである。四ヶ条からなり、冷光院様の響吉良上野介を討ち取ることこそ御靈魂の御照覧あそばす事としている。

二、人々心覚

さきに内蔵助が川崎平間村から出した訓令一号は仇討ちの準備、心構えを徹底するために書かれたものであったが、この人々心覚は、当に討入りそのものの具体的事項を示したものである。以下現代文にしたその十数項目を掲げる。

(一) 討入りの日が決定したら、かねて決めておいた通り、全員がひそかに三か所(本所林町五丁目、堀部安兵衛宅、本所三ツ横町の杉野十平次宅、本所二ツ目相生町三丁目の前原伊助宅)へ集合すること。

(二) 最終的な集合場所は、本所林町五丁目の堀部安兵衛の借家とする。

(三) 定刻を守って出発すること。

(四) 敵(吉良上野介)の首を揚げた者は、首を揚げたときにその死骸の上着を剥ぎ取り、それに包んで持参すること。

(五) もし駆け付けけた幕府役人に出会ったら、「この首は亡君の墓所(泉岳寺)へ持参したいが、お許しただけなければ仕方がない。身分ある方の首だから、むざむざ捨てていくわけにもいかないのです。吉良邸へお返しくださいるか、どのようにするか、お指図にいたします。」と挨拶すること。そのうえで「勝手次第」と

なれば、泉岳寺へ持参し、御墓所へ供えること。(六) 子息(吉良左兵衛義周)(さひょううえよしまさ)の首を揚げても持参せず、討ち捨て

ておくこと。

(七) 味方の負傷者は助けて、一緒に引き揚げる
ことが肝要である。しかし、肩にかけて引き
揚げるができない重傷の者は、かわいそ
うだが、首を落として引き揚げること。

(八) 敵の父子を討ち取ったら、合図の小笛を吹
き、つぎつぎに吹き継いで皆に知らせること。

(九) 証の合図は、全員が引き揚げるときに打つ
こと。

(十) 引き揚げる場所は無縁寺(回向院)とする。
ただし、無縁寺が入れてくれなければ、両国
橋の東の橋際広場に集まること。

(十一) 引き揚げの途中、近所の屋敷から人数を
くり出して押しとどめたときは、挨拶をする。
まず、事実を告げ、「わたしどもはどこへも逃
げ隠れはしない。無縁寺へ引き揚げ、公儀検
分のお使い迎え、意趣を申し上げるつもりで
ある。もし不審に思われるのなら、寺までつ
いてきていただきたい。一人も逃げる者はい
ません」と述べること。

(十二) 屋敷(吉良邸)から追手がきたら、全員
が注意深く踏みとどまり、勝負すること。

(十三) 勝負がつかないうちに御検分使が到着し
たら、門を閉じたまま、くぐり所から一人だ
け外へ出て、挨拶すること。

(十四) 勝負がなかばであっても、事がすんだよ
うに挨拶する。まず、実況を告げ、「ただいま
敵を討ちとめましたので、生き残った者を呼
び集めているところです。ほどなく出ていき、

下知(げじ)(指図)にしたがいます。一人も
逃げたりはしません」と申し上げること。

(十五) 引き揚げの出口は裏門とする。

(十六) もちろんのことながら、討入りのさいは
必死の覚悟を決めること。引き揚げのことを
考えていると、討ち入るときに恐れ、臆する
ことがある。無事に引き揚げても命のないわ
れわれだから、討入りには男らしい覚悟をもつ
ばらにして、それぞれ粉骨碎身の働きをする
こと。

三、浅野内匠頭家来口上書

討入りの目的、理由が述べられている。
特に浅野内匠頭の刃傷事件に対する幕府の裁
きに不服があつて行なうのではなく、ひたすら
亡き主君の無念を晴らす志のみによって行うも
のであることを強調している。

文中、「君父之讐俱不可戴天之儀、(くんぶの
あだはともにてんをいさぐべからず)の中国礼
記から文言引用の可否については、朱子学者細
井広澤の賛同を得ているとのことである。

討入りの時は吉良邸の玄関前に青竹に挟んで
建てかけた。また、義士の幹部たちもそれぞれ
一通を懐中にしていた。吉田忠左衛門と富森助
右衛門は大目付仙石伯耆守へ自訴の際一通を提
出している。

会議は昼間からはじまり、夜に至ったとのこ
とである。

現在のように会議資料はすべてコピーして全

員に配布するというのではなく、まず、すべて
提案者が説明をし、その後全員に一枚の資料を
回覧して質疑が行われ、時間が大変かかつてい
る。いよいよ出陣と決まった同志たちは次々
と国元へ暇乞状をしたためた。その数は三十通
近くである。

ところが、十二月四日になって、神崎与五郎
が上野介の麻布上杉邸への外出を探り出し、さ
らに大高源五が六日の茶会の延期を宗偏から確
かめた。理由は將軍綱吉が松平美濃守の屋敷へ
お成りになるということであつた。当然のこと
ながら、五日の打込みは中止となつた。

この時、内蔵助の軍資金はすでに底をついて
いた。十二月十三日、内蔵助から瑤泉院へ出さ
れた「預置候金銀請払帳」の収支は六百九十七
両一分二朱とある。「不足分の七両一分は自分の
金で支払つた」としている。

また十一月初め江戸集結時、五十五名を数え
た同志もすでに五十名を切ろうとしていた。
内蔵助の思いはどんなであつたらうか。

参考文献

- | | |
|-------------|------|
| ① 新大石内蔵助の生涯 | 中島康夫 |
| ② 赤穂義士実纂 | 斎藤 茂 |
| ③ 金銀忠臣蔵 | 中江克己 |
| ④ 赤穂義士の手紙 | 片山伯仙 |
| ⑤ 忠臣蔵 | 山本博文 |
| ⑥ 元禄快挙真相録 | 福本日南 |
| ⑦ 正史赤穂義士 | 渡辺世祐 |

堀内伝右衛門記念碑建立のお願い

令和元年八月二十六日（伝右衛門二九三回忌）

平成堀内組

頭取 宮川 政士

元禄十四年三月十四日 江戸城松之廊下に端を発した一連の赤穂事件 翌十五年十二月十四日吉良邸討入り 翌十六年二月四日義士切腹に関わる肥後細川藩の接待役に堀内伝右衛門その人がおりました。

細川家お預かり大石内蔵助はじめ十七名を我が事として喜び親身になってお世話をし 切腹後は各々の身内親族を訪ね 持ち帰った十七名の遺髪を知行地内の日輪寺境内に葬り遺髪塔を建て懇ろに供養しました。

又お世話した様子や討入りの様子を聞き取り記録した「堀内伝右衛門覚書（通称）」を残し今に伝えています

この遺志を受け継ぎ 地元の杉堀内組の皆さんが三百年余義士の供養を続けて参りました この人無くして斯くも詳しく正確に語り継がれるべくもなく 赤穂義士に勝るとも劣らぬ「義」と「情」溢れる 地元が誇れる武士（もののふ）であります

この堀内伝右衛門の功績を称え顕彰し 後世に伝えるため「記念顕彰碑」を建立したいと思えます

皆様にはどうぞこの趣旨をご理解いただきお力添えを賜ります様お願い申し上げます

《要 項》

完成予想 (別紙)

図面 (別紙)

《設置場所》

日輪寺（山形市杉） 義士遺髪塔周辺

《完成時期（除幕式）》

令和2年2月4日（火）

義士切腹 318回忌

《モデル》

歌舞伎俳優 五代目 片岡我當丈（松島屋）

平成16年3月 歌舞伎座

「大石最後の日」堀内伝右衛門役

※ 期限 令和元年12月14日（土）まで

《連絡先》

平成堀内組 頭取 宮川政士

携帯 090-3669-0361

〒861-0511 熊本県山鹿市杉1607 日輪寺内

御志をお願いします。

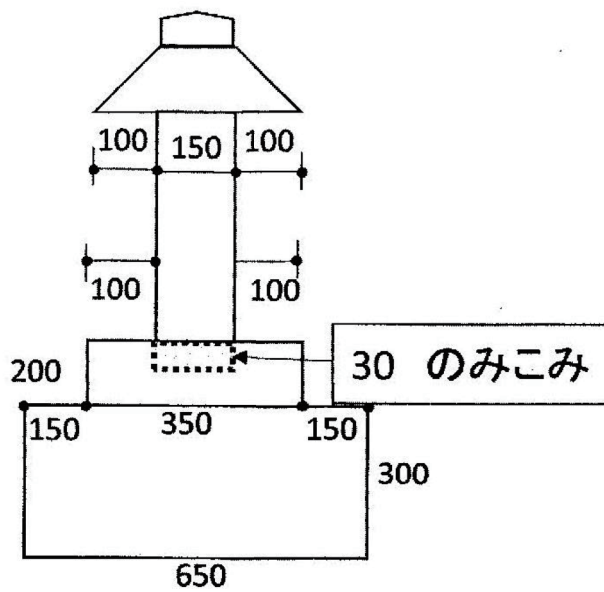
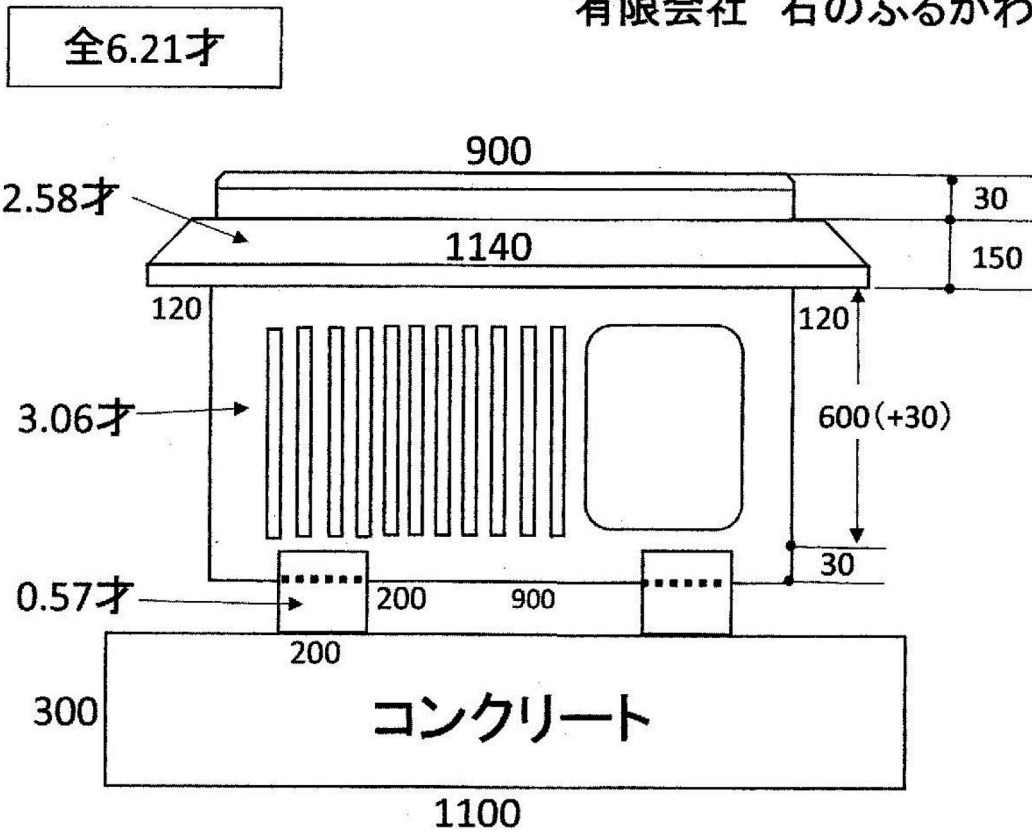
御振込先 01790-2-151226

平成堀内組



明治45年遺髪塔落成式

有限会社 石のふるかわ



赤穂義士のお世話を
 した。
 堀内伝右衛門の碑で
 す。御協力下さい。

別紙

皆様からご意見を頂戴したく思っております。

映画「決算・忠臣蔵」をご覧になって

どのようにお感じになりましたか。

- 瑤泉院が、これほど下品に描かれたのは初めてではないでしょうか。
- 原作者の東大教授は、唯、利用されただけではないでしょうか。
- このように、日本の文化は、壊れていくように思います。

以下にご意見、感想などご自由にお書き下さい。

令和2年1月31日までに、下記宛てお送り下さい。

FAX 048-973-3790又はメール chuogishikai@tokyo.email.ne.jp

結果は、令和2年6月号会報に掲載させていただきます。

ご質問など詳細は 080-8908-1633までお電話下さい。

第 16 回 忠臣蔵通 2 級 検定 試験 問題

[申込方法]

・ 解答用紙の請求

検定試験の受験をご希望の方は、住所、氏名、電話番号、FAX 番号並びに、第 14 回 2 級検定試験申込と記入した用紙を、下記宛て FAX または郵送でお送り下さい。FAX をお持ちの方は、できるだけ FAX でお願い致します。また、メールでも受け付けております。折り返し解答用紙をお送り致します。

宛先 〒135-0047 東京都江東区富岡 1-17-1-403

NPO 法人 忠臣蔵倶楽部

TEL/FAX 03-3630-1927

メール office@chuushingura.jp

・ 受験料と振込先

2 級の受験料は 2000 円です。振り込みで受験申込となります。

郵便局の青色の払込取扱票で下記へお振り込みください。

NPO 法人 忠臣蔵倶楽部 00190-0-346038

払込取扱票の通信欄に「第 15 回 2 級試験申し込み」と記入下さい。

複数名を 1 枚の払込取扱票で申し込まれる場合は、受験者全員のお名前を通信欄に記入下さい。

払込料金をご負担をお願いしております。

[解答の送付]

- ・ 解答は FAX で下記へお送りください。郵送の場合は、下記の中央義士会事務局へお送りください。メールでは受け付けておりませんのでご注意ください。

FAX 048-973-3790

宛先 〒343-0032 埼玉県越谷市袋山 58-12


中央義士会事務局

- ・ 可否は 11 月になってからお知らせ致します。

[注意事項]

- ・ 合格点は 80 点です。24 問以上正解で合格となります。
- ・ ご自宅で資料を調べて解答していただいても結構です。
- ・ 試験問題を調べるために、お電話等で各施設へ直接問い合わせることはおやめ下さい。
- ・ 同じく、会員、受験者同士でも試験のための連絡はおやめ下さい。特に申し上げるのは、連絡しあっている方は、同じ答えで間違っているのですぐにわかります。
- ・ 問題をよく読んで、一言一言理解した上で、解答して下さい。問題を読み間違えないようお願い致します。ひっかけ問題も出題されています。
- ・ 記入問題については、解答用紙以外に別紙を添付していただいても結構です。
- ・ 受験料は締め切りの 1 ヶ月前までにお納め下さい。
- ・ 最終提出日は、令和 2 年 10 月末日です。

令和元年12月

第1問	泉岳寺の義士墓内に48ヶ目のお墓がありますが、どなたが建立したのでしょうか。
第2問	泉岳寺の義士墓内には、お地藏様がありますが、どなたが建立したのでしょうか。
第3問	黄檗宗（おうばくしゅう）といえば、どなたを思い出しますか。
第4問	長福寺は甚三郎の隠れ屋だったのですが、どうして長福寺に寝泊まりしていたのでしょうか。
第5問	「ムメ」とはどなたの奥様でしょうか。
第6問	丹羽の切り通しとは、どこのことでしょうか。
第7問	増上寺の切り通しで寺子屋をやっていた方はどなたでしょうか。
第8問	元禄期、鏡正院とはどこの寺の塔頭でしょうか。
第9問	無量院には、どなたのお墓があったのでしょうか。
第10問	三人の大工の棟梁はどなたでしょうか。
第11問	「  」の字は、どなたに係わる印鑑でしょうか。

第 12 問	「萬山不重」(ばんざんおもからず) はどなたが確認されたのでしょうか。
第 13 問	「生を捨て義を取らんものなり」の漢詩一篇はどなたが残した詩でしょうか。
第 14 問	「結髪為奇」(けっぱつきしたり) の詩は、どなたが作られたのでしょうか。
第 15 問	「みや」とは、どなたの奥様でしょうか。
第 16 問	「たみ」とはどなたの奥様でしょうか。
第 17 問	赤穂義士関係のお寺で、未だに梵鐘を鳴らさない寺があります。どこの寺院でしょうか。
第 18 問	大高源五の元禄 15 年 9 月 5 日の母への手紙は有名ですが、どこが保有しているのでしょうか。
第 19 問	元禄 14 年 3 月 14 日の天候が書かれている史料を 2 つ挙げて下さい。
第 20 問	大石主税が人の家へ行って、ごはんを大食いした話しか残っておりますが、実話でしょうか。
第 21 問	「励中秘函」(れいちゅうひばこ) について簡単に説明して下さい。
第 22 問	「去年以来志浅深之働之次第」の真書は、現在どこの施設で確かめられるのでしょうか。

第23問	「忠義浪人」の原書は何という書名でしょうか。
第24問	介石記の元になる書は何と云う書物でしょうか。
第25問	討入り時に、吉良左兵衛と戦った義士はどなたでしょうか。
第26問	討入り時に、義士と戦った吉良家の剣豪「和久半太夫」が最初に見える古文書は何でしょうか。(因みに和久半太夫は架空の人物です)
第27問	元屋八右衛門とはどなたでしょうか。
第28問	大石内蔵助が城を明け渡し、6月に京都山科に移ってから、腕に疔腫ができ、寝込むまでになりましたが、右か左、どちらの腕にできたのでしょうか。
第29問	「堀部金丸私記」の元禄15年11月13日の大石氏入来物語の覚えに書かれている大石氏はどなたでしょうか。
第30問	小野寺十内の養子(幸右衛門)と養女(いよ)は、どのような間柄だったのでしょうか。

- なるべく期限ギリギリまで努力してご提出下さい。
- 答えが不明の問題もございます。その場合、不明もしくは不知と書いて下さい。
- 文章で答える問題はなるべく短く簡潔にお答え下さい。解答にならない分かりきっていることは書かないのがコツです。
- 採点が△印の場合もありますが、その場合は△が2つで1問正解とします。
- 中央義士会の過去の出版物でも誤記がありますので充分確認の上、解答して下さい。

ここ1年で発行された「忠臣蔵」関係新刊本

書名	編著者	発行所	価格(税別)
マンガで教養 やさしい歌舞伎	清水まり監修	朝日新聞出版	1,200円
神田松之丞 講談入門	神田松之丞著	河出書房新社	1,750円
教科書には書かれていない江戸時代	山本博文著	東京書籍	1,400円
歌川国芳 いきものとばけもの	稲垣進一・恵俊彦著	東京書籍	1,900円
影ぞ恋しき	葉室 麟著	文藝春秋	1,950円
歌舞伎を知れば日本がわかる	田口章子著	新典社(新典社選書)	1,600円
元禄五芒星	野口武彦著	講談社	2,000円
浮世絵に描かれた刀剣と勇士の世界	狩野博幸監修	河出書房新社	2,500円
マンガでわかる歌舞伎	マンガでわかる歌舞伎編集部編	誠文堂新光社	1,600円
マンガでわかる文楽	マンガでわかる文楽編集部編	誠文堂新光社	3,400円
KABUKI GREATS 歌舞伎名演目―世話物―	松竹(株)監修	美術出版社	1,800円
それからの四十七士	岡本さとる著	祥伝社	2,500円
時を超えた男たち	山口 翔著	双里出版	2,700円
演劇界 2019年6月号	演劇出版社編	演劇出版社	1,343円
図説 江戸の「表現」―浮世絵・文学・芸能―	国文学研究資料館	八木書店	12,000円
元号	山本博文編著	悟空出版	1,700円
奇と妙の江戸文学事典	長島弘明編	文学通信	3,200円
おもちゃ絵づくし	アンヘリング著	玉川大学出版部	3,800円
江戸入門	山本博文監修	河出書房新社	1,650円
サバイバル組織術	佐藤 優編	河出新書	850円
東大流「元号」でつかむ日本史	山本博文編	河出新書	880円
京都・江戸魔界めぐり	日本放送協会 NHK 出版編	NHK 出版	1,100円
サムライたちの辞世の句	初田景都・大友宗哉著	辰巳出版	1,100円
演劇界 2019年10月号	演劇出版社編	演劇出版社	1,343円
決算! 忠臣蔵	中村義洋著	新潮社	550円
寺坂吉右衛門最終章	中島康夫・富澤信明著	中央義士会	2,000円

- ・市販されていない著書もございます。
- ・一部、再販の冊子も載せています。
- ・その他、ほんの一部だけ元禄事件を扱っている出版物で除外している著書もございます。
- ・この一年間でこの他に出版された忠臣蔵物、あるいは元禄事件関係の書物をご存じの方はご一報下さい。
- ・本頁に関して、赤穂市教育委員会生涯学習課小野慎一氏の協力を得ました。